

教員紹介



准教授
阿内 春生

研究テーマ

市町村議会を中心とした教育政策決定過程の研究

教職大学院では学校経営関連の授業も担当します！なじみのない分野と思わずに一緒に頑張らしましょう。



准教授
秋山 了

研究テーマ

中学校数学科における「わかる・できる・おもしろい」授業展開と教材開発

中学校教職経験をもとに、教員の授業力向上の方略について考えています。ぜひ、一緒に授業力向上を目指しましょう！



教授
内田千代子

研究テーマ

若者の引きこもり・自殺関連行動(特に発達障害に注目して)

精神科医師として、医療と教育の懸け橋となるような支援を目指しています。一緒に考えていきましょう。



特任教授
鶴沼 秀雅

研究テーマ

小学校社会科教育の理論と実践研究

現場で悩み多い社会科教育における理論や実践を探究しましょう。



特任教授
大関 彰久

研究テーマ

社会の変化に対応した特別支援教育のあり方

これまでの経験を基に、共生社会の形成に向けた特別支援教育の更なる充実と発信に力を注ぎたいと思います。



特任教授
太田 光一

研究テーマ

西洋近代の教育思想史、特にコメニウスの教育思想・哲学思想の研究

外国の教育の歴史を概観するたびに、日本の教師が優秀で熱心であることを実感します。それに比べて国の財政援助が少ない。



特任准教授
北川 裕子

研究テーマ

保健体育科における理論と実践研究

高校教員経験を基に、理論と実践の統合を図り、問題解決や授業改善をする力をつけるように考えています。



特任教授
齋藤 幸男

研究テーマ

学校経営に関する実践的研究

今学校改善が求められています。どの子も思う存分学べる学校・学級づくりを学校現場とともに探究します。



准教授
坂本 篤史

研究テーマ

教師の学びを促す授業研究のあり方

授業実践の分析と教師の学びについて研究しています。授業の事実から共に学んでいきましょう。



特任教授
佐藤 和彦

研究テーマ

国語科学習指導法の研究／カリキュラム・マネジメントと学校経営

新たな福島教育創成に向けて、「震災体験が切り拓いていく教育」について共に考えていきましょう。



特任准教授
芝田 直久

研究テーマ

社説・コラム等の授業での活用、スピーチや実用英語の研究

英語を話すためには、文法等の英語そのものの知識だけでなく、様々な分野に興味を持ち、知識をたくさん増やすことが大切です。



特任教授
嶋 英治

研究テーマ

音楽科教育における「知覚・感受」を基にした指導法の研究

言葉が感性を高め、高まった感性が実践に豊かさをもたらし、言葉が成長します。共に「理論と実践の往還」の喜びを！



特任教授
高橋 正人

研究テーマ

高等学校における国語科教育に関する指導法についての研究

生涯にわたる学びの礎となる「考えること」と「表現すること」の楽しさを国語科の授業にもたらしたいと考えています。



教授
谷 雅泰

研究テーマ

明治期地方教育行政史／デンマークの教育

公教育とはどうあるべきか、歴史や外国の事例から考え、実践の基盤になる教育観を鍛えましょう。



教授
鶴巻 正子

研究テーマ

知的障害や発達障害のある子どもの読み書き支援の実践的研究

特別支援教育のさらなる発展と指導力向上をめざし、ニーズのある子ども達への支援と一緒に考えましょう。



特任教授
野崎 修司

研究テーマ

小学校理科における指導法の研究及び教材開発

理科教育を窓口に、主体的な学びについて実践的に研究を推進することで、教育についての深い理解を目指しましょう。



教授
浜島 京子

研究テーマ

子どもの家庭生活とその教育

低学年からの家庭生活学習及び家庭科の内容やその在り方に関心をもっています。一緒に考えていけたらと思います。



教授
松下 行則

研究テーマ

インテグレイティブ・シンキング、『学び合い』、カルタでつくる道徳授業の研究

学級経営や生徒指導を視野に入れた道徳科授業づくりを通して、「すべての子どもの価値観が尊重される」学校を実現しましょう。



准教授
宗形 潤子

研究テーマ

子どもの主体性・学びに関する研究／生活科における砂遊びについての研究

現場の先生方と子どもの学びや授業について一緒に悩み、考え、よりよいものを目指しています。仲間となつて一緒に学びましょう。



教授
森本 明

研究テーマ

算数・数学の授業とカリキュラムの構成

思考する楽しさを伝えたい。その実現には実践をふまえた教材や授業の研究が必要かつ重要だと考えています。

在学院生の声



教職大学院という魅力

ミドル・リーダー養成コース 2年
(郡山市立橋小学校籍 現職派遣院生)
芳賀 裕

福島大学教職大学院の理念として「理論と実践の往還」というものがあります。教職大学院は、理論と実践を行き来しながら学ぶという学校現場に根ざした学びの場です。職種も年齢も様々な現職派遣の院生と学部卒の若い院生の皆さんとの講義での発表や議論、学校実習を通じた学びは、理論とともに新たな知見や気づきを得る機会となります。連携協力校における実習は、大学院生という立場で改めて学校を見つめ直すことで、子どもの学びを見る目、授業を見る目、学校を見る目を養うことにつながります。このような「理論と実践の往還」を通して、現場に戻ったときに実践に活用できる柔軟な新しい見方・考え方を獲得し、現場にいる時とはまた違ったステップアップを実現できるということが、教職大学院で学ぶ大きな魅力の一つだと感じています。



「見る目」を養える深い学びの場

教育実践高度化コース 2年
(福島大学卒 学部卒院生)
猪野 令奈

昨年度、教職大学院で過ごした一年間は、深く濃い学びのある有意義な時間でした。教職大学院は、学校現場における実習での学びを重視しているため、実際に自分で参観したり実践したりすることによって抱いた疑問や関心について研究を進めていくことができます。私自身、一年間の学校での実習を通して、多くの疑問や興味が生れました。今自分が抱いている疑問を解決するためにどうすればよいのかを考えたり興味あるものを追究したりすることは、教師として大切な姿勢であると思います。そしてこのような様々な視点から「見る目」を養うことができるのが、教職大学院の魅力であり、よさであると思えます。見る目をしっかりと持ち、それを生かしながら、目の前の子どもたちと真剣に向き合うことのできる教師を目指し、教職大学院での日々の学びを大切にしていきたいです。

福島大学 教職大学院Q & A

Q1

今までの大学院修士課程との違いは何ですか？

大きな違いは、学校現場を通して高度な実践力を身につけることを目指していることです。

Q2

修士論文は書くのですか？

修士論文の提出は求めません。代わりに、日頃の実践を理論的にみつめて省察した成果をまとめた実践報告書を作成します。

Q3

学校における実習はどこでやることになるのですか？

大学近郊の連携協力校(附属学校を含む)で実習を行います。

Q4

プロジェクト研究は、小・中・高・特別支援等の校種や教科などは、自分の希望するもので取り組めるのでしょうか？

はい。自身が希望する校種、教科での実施が可能です。実施テーマについては、実習校とのすりあわせが必要となります。

Q5

教職大学院の施設や設備等、学習環境はどのようになっていますか？

大学ではPCタブレット、プロジェクター等のICT環境が整備された共同スペースがあり、専用の机が貸与されます。もちろん学内の図書館も利用可能です。

Q6

教職大学院に入学する前や在学中に教員採用試験に合格した場合、採用名簿登録期間を延長してもらえますか？

福島県教育委員会では申請により、在学期間(2年間)について採用名簿搭載期間の延長が可能です。手続き等は教育委員会にお問い合わせください。